

九州北西部海域におけるアオリイカ漁獲実態

Fishing survey of the Oval Squid, *Sepioteuthis lessoniana*
in Northern and Western Waters of The Kyusyu金丸彦一郎¹⁾

Hikoichirou KANAMARU

¹⁾ 佐賀県玄海水産振興センター (現所属 佐賀県栽培漁業センター)

はじめに

アオリイカ *Sepioteuthis lessoniana* は九州北西部海域において、定置網、いか釣り漁業等の重要な漁業資源の一つとなっている。金丸ら (未発表) の標識放流結果によると、同海域のアオリイカは同一系群と考えられるものの、農林水産統計上ではアオリイカ単独で集計されていないことから、その資源量や漁獲量については把握されていない。

同海域のアオリイカ産卵期については、道津ら (1981) は長崎県野母崎、五島列島では5月中旬～8月頃、異儀田 (1991) は佐賀県玄海域では4月中旬～9月頃で盛期が5～6月頃と報告している。月別漁獲量については、道津ら (1981) が1972～79年の五島富江漁協を、日本栽培漁業協会 (1990) が1984～88年の五島三井楽漁協を、また異儀田 (1991) が1987年～89年の佐賀県玄海域をそれぞれ調査し報告している。これらによると月別漁獲量は、秋季に当年生まれの小型群、春季に前年生まれの産卵群を中心とした二峰型の漁獲がみられ、8月に最も少なくなっている。

アオリイカの漁獲量については、漁業協同組合 (以下、漁協と略す) や市場において単独で集計されているのはごく一部で、大部分の漁協や市場においては水揚伝票上ではアオリイカで記載されているものの“その他イカ類”として集計されているため把握しにくく、そのため漁獲実態についても不明な点が多い。

本報では、九州北西部海域においてアオリイカを水揚げしている主要な漁協や市場の水揚伝票や月報等を整理集計し、同時に聞き取り調査等を行い、その漁獲実態について知見が得られたので報告する。

本文に先立ち、本調査を行うにあたり御協力をいただいた、福岡県水産海洋技術センター、長崎県水産試験場、長崎県福江、上五島、田平、壱岐の各水産改良普及所ならびに各関係漁協、市場の皆様が心から感謝の意を表す。

材料と方法

九州北西部海域においてアオリイカの漁獲量が3つの年級以上にわたって把握できた漁協、市場を対象として95年8月までの資料を集計整理した。本調査の対象とした漁協、市場を図1に示した。これら以外の周辺漁協、市場についても、各種集計資料の調査や聞き取り調査を行い、同海域全体におけるアオリイカ漁獲量を推定するための補足資料として用いた。

3つの年級以上にわたって把握できた漁協、市場は以下のとおりである。

【佐賀県玄海地区】

唐津：佐賀県玄海漁連の1984年1月以降の水揚げ伝票と唐津魚市場の84年1月以降の水揚げ月報。

【福岡県筑前地区】

福岡：福岡魚市場における沿岸課の1989年4月以降の水揚げ月報。

【長崎県壱岐地区】

郷ノ浦：壱岐郡郷ノ浦漁協の89年4月以降の水揚げ月報。

【長崎県北松・平戸地区】

新屋鹿：松浦市新屋鹿漁協の89年4月以降の水揚げ月報。

獅子：平戸市獅子漁協の89年1月以降の水揚げ月報。

生月：北松浦郡生月町生月漁協の90年9月以降の水揚げ月報。

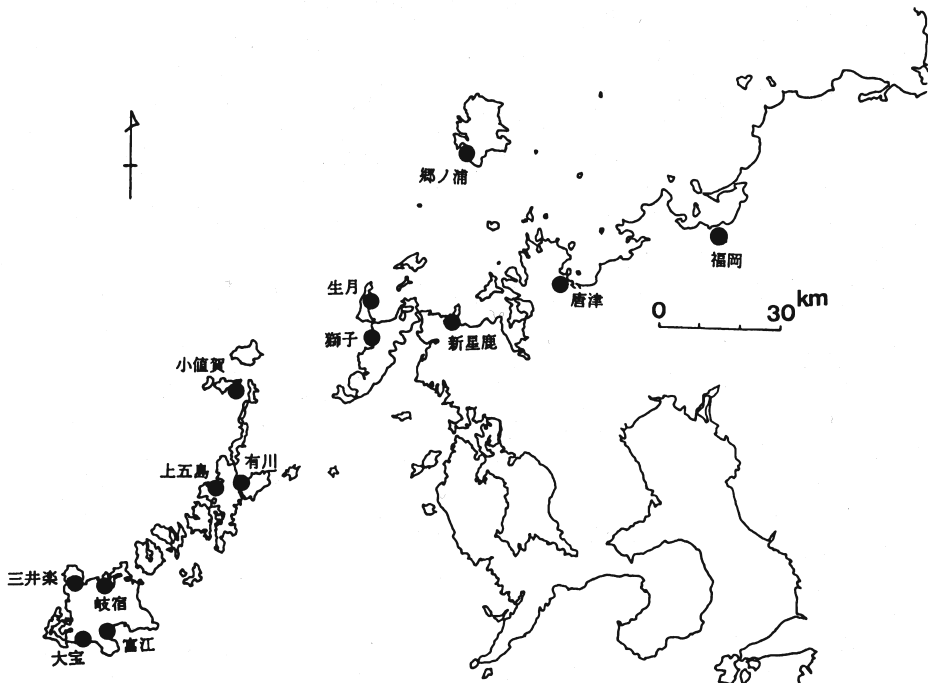


図1 調査対象海域

●：調査対象漁協、市場

【長崎県上五島地区】

小値賀： 北松浦郡小値賀漁協の89年1月以降の水揚月報。

有 川： 南松浦郡有川町有川漁協の89年1月以降の水揚月報。

上五島： 南松浦郡上五島町上五島漁協の84年4月以降の水揚月報。

【長崎県五島地区北岸】

岐 宿： 南松浦郡岐宿町岐宿漁協の90年4月以降の水揚月報。

三井楽： 南松浦郡三井楽町三井楽漁協の90年4月以降の水揚げ月報。

【長崎県五島地区南岸】

富 江： 南松浦郡富江町富江漁協の84年4月～86年3月と87年4月以降の水揚月報。

大 宝： 南松浦郡玉之浦町大宝漁協の92年4月以降の水揚月報。

結果と考察

九州北西部海域において当年生まれのアオリイカが漁獲され始めるのは、年によって前後はするものの通常8月下旬頃からで、一部の海域で外套背長5～10cm程度の個体が定置網に入網するようになる。しかし同海域全体でみると8月に漁獲される量は少なく、本格的に漁獲されるのは9月からである。一方前年生まれの産卵群である大型個体の漁獲は5,6月をピークに7月以降急減し、9月になるとまとまった漁獲はみられなくなる。

各漁協、市場の漁獲量は月別にしか集計されていないことを考慮して、本報では9月から翌年8月までに漁獲される漁獲量をアオリイカの一つの年級群と仮定して検討をすすめた。

1 月別漁獲実態

各漁協、市場の92年9月から95年8月までの月別漁獲量を、92年9月から93年8月までを92年級、93年9月から94年8月までを93年級そして94年9月から95年8月までを94年級として図2-1,2に示した。

唐 津： 佐賀県玄海漁連魚市場と唐津魚市場の合計水揚量は、92～94年級では94年11月の21.6トンが最高であった。各年級の月別漁獲状況を見ると5,6月を中心とした春季の漁獲が多く、10～12月の秋季の漁獲がこれに次ぎ、1～3月の冬季の漁獲は少なかった。漁業種類別には定置網による漁獲が最も多く、秋季にはいか釣りによる漁獲も多かった。

福 岡： 福岡魚市場では95年5月の43.0トンが最高であった。月別漁獲状況を見ると5,6月を中心とした春季の漁獲が多く、10～12月を中心とした秋季の漁獲がこれに次ぎ、1～3月の冬季の漁獲は少なく、唐津と同様な傾向がみられた。漁業種類別についても唐津と同様定置網による漁獲が最も多く、秋季にはいか釣りによる漁獲も多かった。

郷ノ浦： 壱岐郡郷ノ浦漁協では94年11月の13.8トンが最高であった。月別漁獲状況を見ると10～12月の秋季と5～7月の春季の漁獲が多く、1～3月の冬季の漁獲はやや減少する傾向がみられたものの唐津、福岡ほど顕著ではなかった。漁業種類別には定置網、いか釣りおよびいか刺網により漁獲されていた。

新星鹿： 松浦市新星鹿漁協では95年5月の10.2トンが最高であった。月別漁獲状況をみると4～7月の春季の漁獲が多く、10～12月の秋季と12月の漁獲は少なかった。漁業種類別には定置網による漁獲が大部分であった。

獅子： 平戸市獅子漁協では95年5月の5.0トンが最高であった。月別漁獲状況をみると3～7月の春季の漁獲が多く、9～12月の秋季の漁獲がこれに次ぎ、12月の漁獲は少なかった。漁業種類別には定置網による漁獲が大部分であった。

生月： 北松浦郡生月漁協では94年11月の21.6トンが最高であった。月別漁獲状況をみると10～12

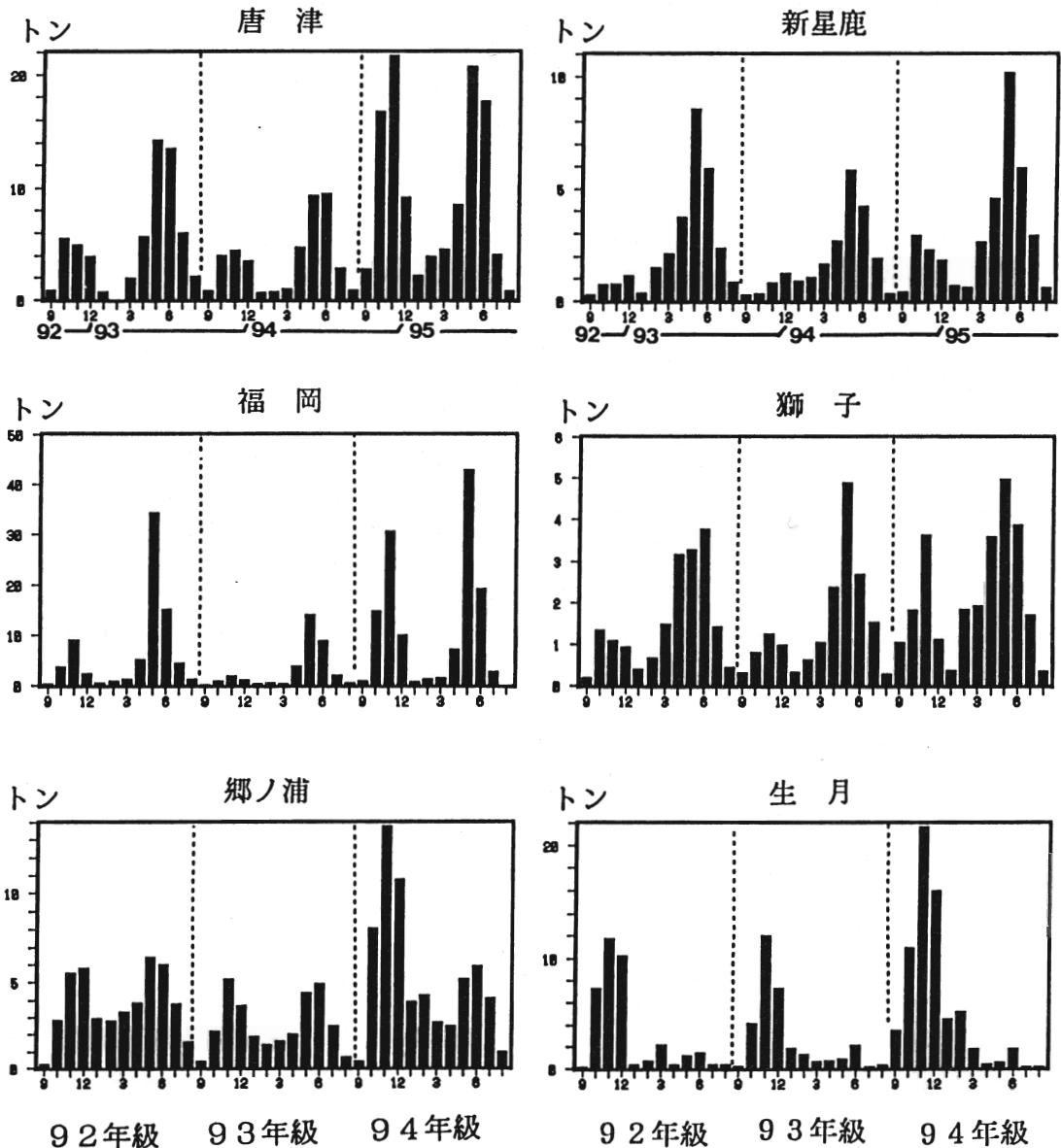
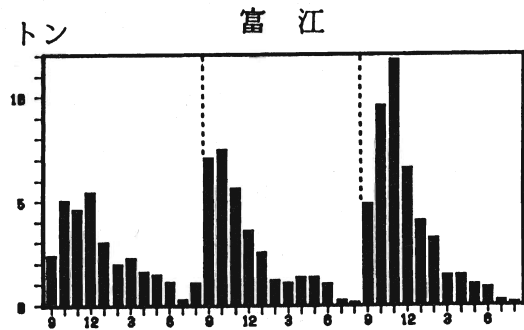
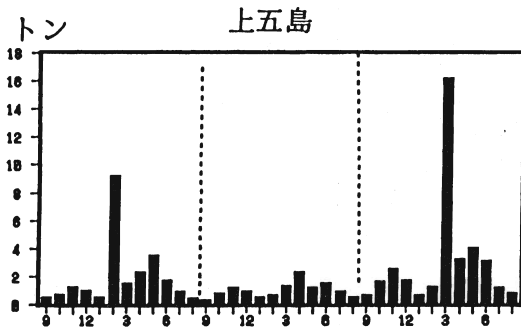
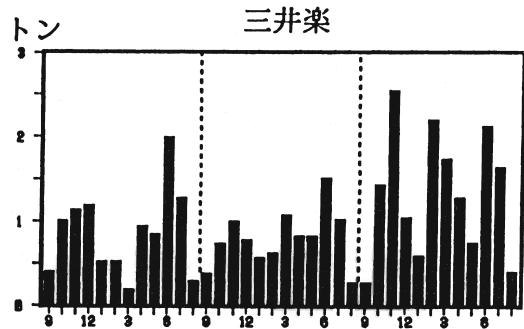
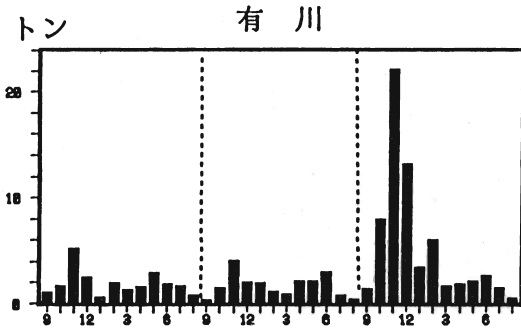
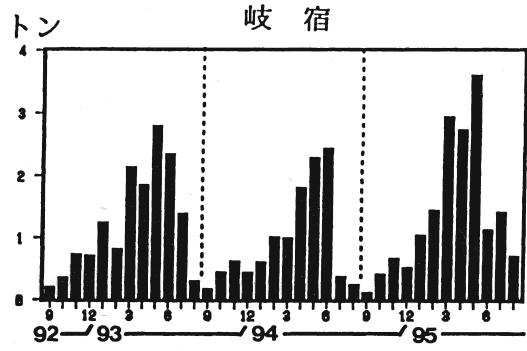
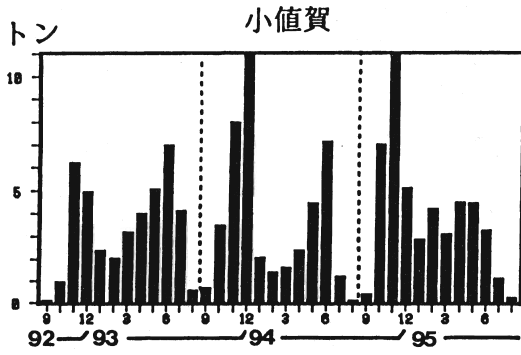
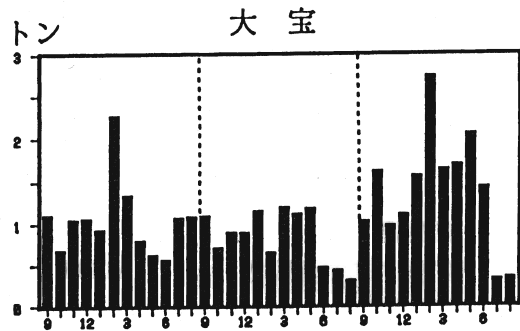


図2-1 主要漁協、市場の月別漁獲量



92年級 93年級 94年級



92年級 93年級 94年級

図2-2 主要漁協、市場の月別漁獲量

月の秋季の漁獲が多く、1月以降の冬季、春季の漁獲は少なかった。漁業種類別には定置網による漁獲が大部分であった。

小値賀： 北松浦郡小値賀漁協では3つの年級では93年12月と94年11月の11.0トンが最高であったが、91年5月には21.9トンの漁獲がみられた。月別漁獲状況を見ると10～12月の秋季と4～6月の春季の漁獲が多く、1～3月の冬季の漁獲はやや減少する傾向がみられたものの、郷ノ浦を除く平戸・北松以北の地区ほど顕著ではなかった。漁業種類別にはいか刺網といか釣りが主体であった。

有川： 南松浦郡有川漁協では94年11月の22.1トンが最高であった。月別漁獲状況を見ると10～12月の秋季の漁獲が多く、4～6月の春季の漁獲がこれに次ぎ、1～3月の冬季の漁獲は少なかった。漁業種類別には定置網による漁獲が最も多く、次いでいか曳きによる漁獲であった。

上五島： 南松浦郡上五島漁協では95年3月の16.2トンと93年2月の9.3トンと春先に大量の漁獲がみられた。月別漁獲状況を見ると4～6月の春季の漁獲が多く、9～12月の秋季の漁獲がこれに次ぎ、1月の漁獲は少なかった。漁業種類別には定置網といか釣り、いか曳きが主体であった。

岐宿： 南松浦郡岐宿漁協では95年5月の3.6トンが最高であった。月別漁獲状況を見ると4～7月の春季の漁獲が多かった。1～3月の冬季の漁獲が次いで多く、10～12月の秋季の漁獲よりも少なく、上五島以北の地区の漁協、市場とは異なった傾向がみられた。漁業種類別には定置網による漁獲が主体であった。

三井楽： 南松浦郡三井楽漁協では94年11月の2.6トンが最高であった。月別漁獲状況を見ると4～7月の春季の漁獲が多く、10～12月の秋季の漁獲がこれに次いで多かった。上五島以北の地区の漁協、市場と比較すると冬季の減少傾向は小さい傾向がみられた。漁業種類別には定置網、いか釣りによる漁獲が主体であった。

富江： 南松浦郡富江漁協では94年11月の11.8トンが最高だったが、91年10月には19.0トンの漁獲がみられた。月別漁獲状況を見ると10～12月の秋季の漁獲が最も多く、1～3月の冬季、4～6月の春季の漁獲と徐々に減少していく傾向がみられた。漁業種類別にみると定置網による漁獲が大部分であった。

大宝： 南松浦郡大宝漁協では3つの年級では95年2月の2.8トンと93年2月の2.3トンが最高であった。月別漁獲状況を見ると7,8月を除くと周年ほぼ一様な漁獲がみられた。漁業種類別には定置網による漁獲が主体であった。

今回集計した九州北西部海域における漁協、市場の月別漁獲量をみると、生月、有川、富江など東向きの湾や海域では10～12月の秋季の漁獲が春季より多い傾向が、逆に新星鹿、獅子、上五島、岐宿などの西向きの湾や海域では4～6月の春季の漁獲が秋季より多い傾向がみられた。この傾向は直線距離ではわずか数km程度しか離れていない獅子漁協と生月漁協との間で顕著で、平戸島西岸の獅子では春季が、生月島東岸の生月では秋季の漁獲が非常に多かった。これは金丸ら（未発表）が行った同海域におけるアオリイカ標識放流結果、秋季の水温が低下する時期には南、西方向へ、春季には北、

東方向へ移動する傾向がみられることを裏付けているものと考えられる。

多くの漁協や市場において秋季と春季の漁獲に比べ冬季の漁獲が減少する傾向がみられたが、佐賀県玄海地区の唐津、福岡県筑前地区の福岡、長崎県北松・平戸地区の新星鹿などより北に位置する漁協、市場ほどその減少傾向は顕著であった。一方、長崎県壱岐地区の郷ノ浦や上五島、五島地区の各漁協など、離島ではその減少割合が小さく、また同じ離島の中でもより南に位置する漁協、市場ほどその減少割合は小さかった。五島地区北岸の岐宿では逆に冬季の漁獲の方が秋季の漁獲より多かった。これらは冬季の水温低下の度合いと回遊状況などと関連があるものと考えられる。

また、本報では9月から翌年8月までに漁獲される漁獲量をアオリイカの一つの年級群と仮定して検討をすすめたが、同海域における道津ら(1981)、異儀田(1991)の産卵期、金丸・伊東(1996)の幼稚仔の出現時期そして多くの漁協や市場の月別漁獲量は年級の端境期と思われる8月が最小であることなどからみて、ほぼ妥当なものと考えられる。

2 年級別漁獲実態

各漁協、市場の1989年級から94年級までのうち、年級別漁獲量が把握できた年級群について図3-1,2に示した。

唐津：佐賀県の玄海漁連魚市場と唐津魚市場の年級別合計漁獲量は、6年級群のうち94年級が112.7トンと最も多く、最も少なかった93年級は42.3トンと94年級の38%にすぎなかった。これ以外の年級は60～68トンの範囲であった。

福岡：福岡魚市場の年級別漁獲量は、5年級群のうち94年級が131.9トンと最も多く、最も少なかった93年級は34.5トンと94年級の26%にすぎなかった。これ以外の年級は63～79トンの範囲であった。

郷ノ浦：郷ノ浦漁協の年級別漁獲量は、5年級群のうち94年級が69.5トンと最も多く、次いで90年級が60.3トンであった。最も少なかった93年級は34.6トンと94年級の50%であった。

新星鹿：新星鹿漁協の年級別漁獲量は、5年級群のうち94年級と91年級の2つの年級群が多く、それぞれ35.6トンと34.5トンであった。最も少なかった93年級は21.3トンと94年級の60%であった。

獅子：獅子漁協の年級別漁獲量は、5年級群のうち91年級が30.1トンと最も多く、次いで94年級が26.3トンであった。最も少なかった89年級は14.5トンと91年級の48%であった。

生月：生月漁協の年級別漁獲量は、5年級群のうち94年級が66.7トンと最も多く、次いで91年級が52.5トンであった。逆に93年級と90年級がそれぞれ31.7トンと32.8トンと少なく、最も少なかった93年級は94年級の48%であった。

小値賀：小値賀漁協の年級別漁獲量は、6年級群のうち91年級の81.4トンが最も多く、次いで89年級の73.0トン、90年級の57.6トンであった。最も少なかった92年級は40.7トンと91年級の50%であった。また唐津、福岡、郷ノ浦などで漁獲の多かった94年級は47.3トンであり最も多かった91年級の58%にとどまった。

有川： 有川漁協の年級別漁獲量は、6年級群のうち94年級と91年級がそれぞれ64.6トンと55.0トンと多く、他の年級の漁獲量は20.5～23.1トンの範囲であった。最も少なかった93年級は20.5トンと94年級の32%にすぎなかった。

上五島： 上五島漁協の年級別漁獲量は、6年級群のうち94年級と91年級がそれぞれ37.1トンと33.5トンと多く、次いで92年級が20.7トンであった。これ以外の年級は11.5～14.8トンの範囲で、最も少なかった93年級は12.3トンと94年級の31%にすぎなかった。

岐宿： 岐宿漁協の年級別漁獲量は、4年級群のうち91年級の漁獲量が23.8トンと最も多く、次いで94年級が16.8トンであった。最も少なかった93年級は11.5トンと91年級の48%であった。

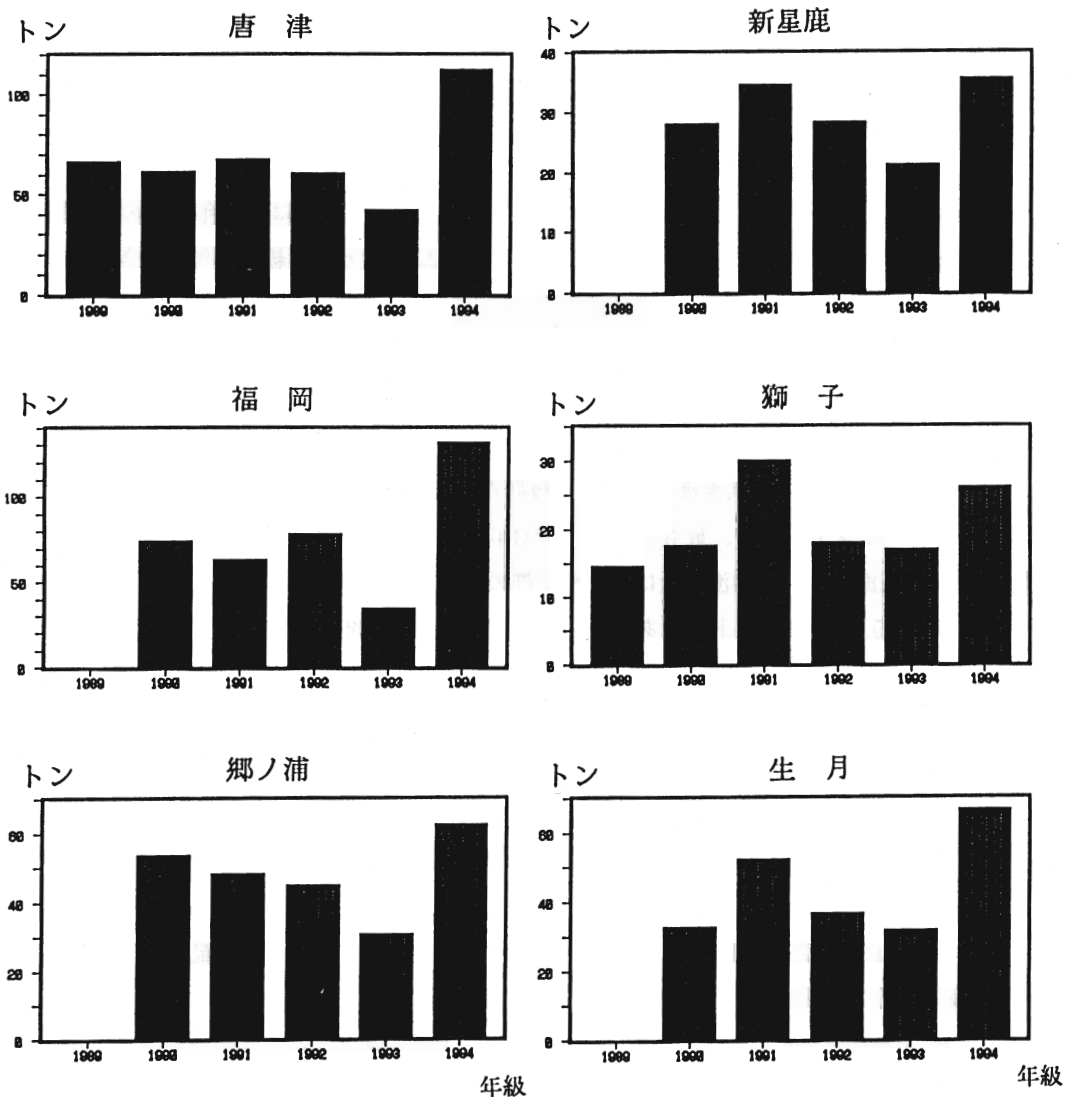
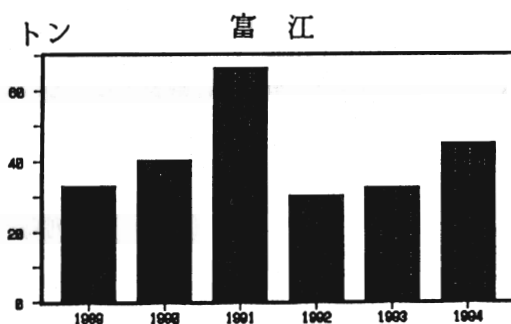
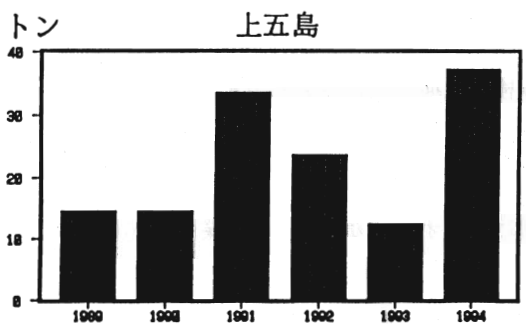
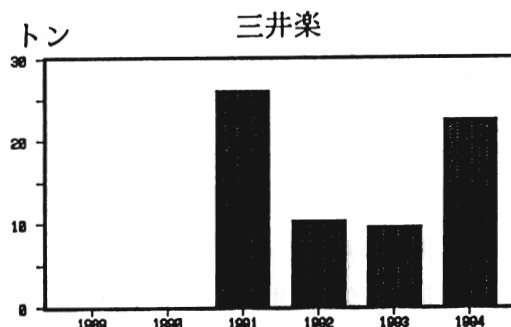
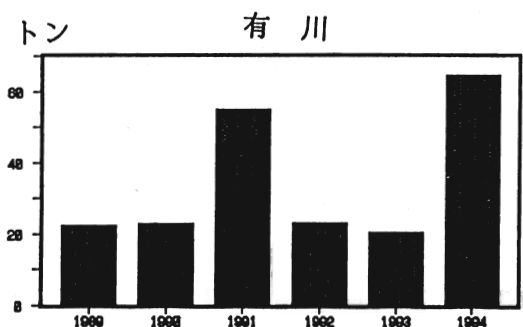
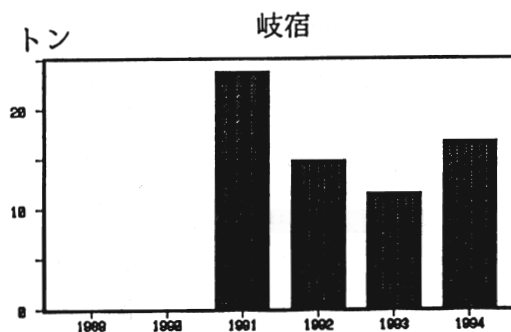
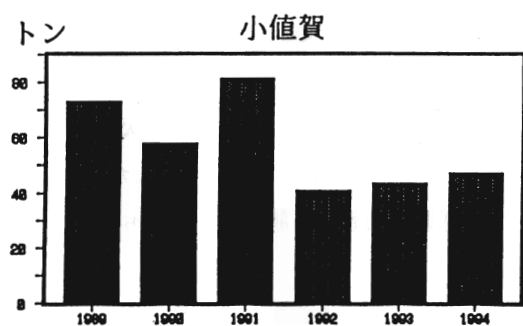
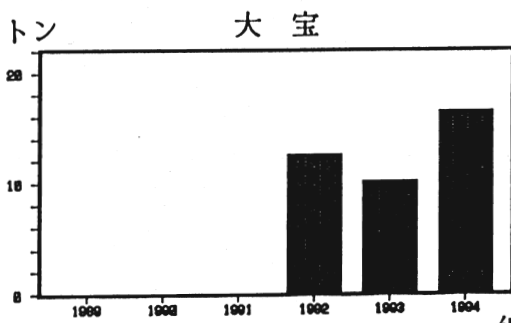


図3-1 主要漁協、市場の年級別漁獲量



年級



年級

図3-2 主要漁協、市場の年級別漁獲量

三井楽： 三井楽漁協の年級別漁獲量は、4年級群のうち91年級が26.1トンと最も多く、次いで94年級の22.6トンであった。これ以外の年級の漁獲量は91,94年級の半分以下で、最も少なかった93年級は9.6トンと91年級の37%にすぎなかった。

富江： 富江漁協の年級別漁獲量は、6年級群のうち91年級が66.4トンと最も多く、次いで94年級が45.0トンであった。最も少なかった92年級は30.2トンと91年級の45%にすぎなかった。

大宝： 大宝漁協の年級別漁獲量は、3年級群では94年級が16.1トンと最も多く、最も少なかった93年級は10.1トンと94年級の61%であった。

今回集計した九州北西部海域における13の漁協と市場の漁獲量の合計は、最も多かった94年級が約680トン、最も少なかった93年級が約320トンであった。これに周辺漁協、市場における各種集計資料や聞き取り調査による漁獲量を加えると、九州北西部海域全体におけるアオリイカ漁獲量は概数でこの2倍程度あるものと推定された。

各漁協、市場の年級群別漁獲量が最も少なかったのは93年級であった。93年夏季は九州北西部全域において降水量が非常に多く、また低水温であった。鈴木ら（1983）は京都府若狭湾沿岸域で6～8月に降雨量の多い年に秋のアオリイカ漁獲量が少ない傾向があることを報告しており、このことが93年級群の漁獲量が少なかった原因とも考えられる。

最も漁獲量が多かった年級は北と南で異なり、同海域の中でも北に位置する福岡、唐津、郷ノ浦では94年級が、比較的南に位置する小値賀、岐宿と富江では91年級がそれぞれ最も多かった。また新星鹿、生月、有川と上五島では94年級が最も多く91年級が次いで多く、獅子と三井楽では91年級が最も多く94年級が次いで多かった。このように漁獲が最も多かった年級が地区によって異なる原因については、今後漁獲実態などを詳細に調査することにより検討把握していく必要がある。

文 献

道津喜衛・島尾 優・夏苺 豊（1981）五島列島におけるアオリイカの生態と漁業。五島の生物。長崎県生物学会編，457-465。

異儀田和弘（1991）佐賀県玄海域におけるアオリイカの漁業と生態について。平成2年度イカ類資源・漁海況会議，北水研，92-93。

金丸彦一郎・伊東義信（1996）アオリイカ幼稚仔の成長にともなう鰭の発達と二次性徴の発現。栽培技研，25(1)，15-20。

日本栽培漁業協会（1990）資源添加技術開発の概要（アオリイカ）。昭和63年度日本栽培漁業協会事業年報，364-371。

鈴木重喜・桑原昭彦・鷲尾圭司（1983）京都府沿岸域で漁獲されるブドウイカ，アオリイカの生態的特徴について。水産海洋研究，42，21-27。